

新刊案内

『お出かけは<13日の金曜日>』 赤川 次郎/著 汐文社 T/アシ
『外科室』 泉 鏡花/著 立東舎 T/イキ
『夢十夜』 夏目 漱石/作 立東舎 T/ナソ
『この川のおこうに君がいる』 濱野 京子/著 理論社 T/ハキ
『情熱でたどるスペイン史』 池上 俊一/著 岩波書店 T236/イシ
『国旗と国章図鑑』 苅安 望/著 世界文化社 T288/カ/
『僕たちは、宇宙のことぜんぜんわからない』 ジョージ チャム/著 ダイヤモンド社 T440/チシ
『絵でわかる生態系のしくみ』 鷺谷 いづみ/著 講談社 T468/ワイ
『発音記号キャラ事典』 Dacci from 英語物語/著 KADOKAWA T831/タツ
『緋弾のアリア』【29】【30】 赤松 中学/著 KADOKAWA TB/アチ
『司波達也暗殺計画』【2】 佐島 勤/著 KADOKAWA TB/サツ
『狼と香辛料』【21】 支倉 凍砂/著 KADOKAWA TB/ハイ



ティーンズのココロ通信 山口市立中央図書館 184号
 平成31年 4月 1日 発行 〒753-0075 山口市中国町7-7
 TEL: 083-901-1040 FAX: 083-901-1144
 Eメール: info@lib-yama.jp



ご入学、ご進級おめでとうございます。
 4月になり、また新しい一年が始まりましたね。
 初めてココロ通信を目にする人もいるかも
 しれませんが、ココロ通信では毎月テーマに沿って
 様々な本を司書が選び、紹介しています。
 新しい学校、新しい学年になり、みなさんも希望に
 満ち溢れているのではないのでしょうか？
 そこで今月は【希望】をテーマに本を集めました。



●『ぼくらの七日間戦争』

宗田 理／著 ポプラ社 T／ソオ

夏休みを明日にひかえた放課後、東京下町の中学校1年2組の男子生徒22名が姿を消した。彼らは廃工場に立てこもり、そこを「解放区」と宣言して、理不尽な教師や親たちへ叛乱を起こす！

みんなでコンクリートの床に雑魚寝して、ホースのシャワーを浴び、缶詰を食べます。説得に来る親に文句を言って、暴力教師をやっつけて、やりたい放題！中学生が生き生きと特別な“今”を楽しみます。とても爽やかな気分になれる作品です。(S. K)

●『旅に出よう、滅びゆく世界の果てまで。』

萬屋 直人／著 メディアワークス TB／ヨタ

明日世界から消えてしまったら、貴方はどんな生き方をしますか？そこに存在した痕跡ごと人が消えゆく世界。名前を喪った少年と少女はスーパーカブに乗って旅をします。いつか訪れる喪失に怯えず、2人は前だけを向いて楽しそうなことに挑戦し続けます。旅先で出会った人々も感化されて、限られた人生を後悔しないように動き始めて……。

たとえ人生の展望が暗くても、彼らのように精一杯楽しんで生きたいですね。(S. K)

●『モモ』

ミヒヤエル エンデ／著 岩波書店 TF／エミ

モモは不思議な女の子。モモに話を聞いてもらおうと、どんな人でも心が穏やかになるのです。そんなモモの住む町に、ある日灰色の男たちがやってきます。彼らは人々をだまして時間を盗む、時間泥棒だったのです。町の人たちは時間を盗まれていることに全く気がつきません。モモは人々に時間を返すため、たったひとり時間泥棒に立ち向かいます。

最後の希望となったモモは、時間泥棒から時間を取り戻すことができるのでしょうか？モモと一緒に時間を巡る冒険に出かけましょう。(S. M)

●『明日のカルタ ことば絵本』

倉本 美津留／著 テッポー デザイン。／イラスト

日本図書センター T159／クミ

明日は明るい日。明日の明日はもっと明るい日。だから未来はすごく明るい。放送作家の著者が、人々が笑顔になれるメッセージをカルタ形式で紹介しています。明日への希望につながる言葉に勇気付けられます。はっと気づかされる言葉もあり、自分の行動を見つめ直すきっかけにもなります。絵札（イラスト）にも注目して読むと楽しいです。今の自分に必要な言葉がきっと見つかるはず。(S. M)

●『中高時代に読む本50』

清水 克衛／著 PHP研究所 T019／シカ

書店「読書のすすめ」の店長が、中高生におすすめの本を紹介している1冊です。「学校の試験にはどんな難しい問題でも必ず正解がある。しかし未来の社会にはまだ正解も不正解もない。君たちの思考と行動次第で決まっていくんだ。(本文より)」

一冊一冊の本から店長の熱い想いが伝わってきて、紹介された本を読んではみたくになります。仕事や夢、人生について…など、読むとあなたの生きる世界が広がるかもしれませんよ。(W. U)

●『青春は燃えるゴミではありません』

村上 しいこ／著 講談社 T／ムシ

高校3年生の春、短歌部の部長となった主人公の白石桃子には、パティシエになりたいという夢があったが、自分ではどうしてもできない経済的な理由から厳しい現実が立ち塞がり気持ちがついていかない。そんな中、ある約束のために短歌の甲子園に出ることになる。将来の不安や、卒業後離れ離れになる友達のこと、部長としての責任など、押しつぶされそうな感情を短歌に込める。高校3年生は大人でも子どもでもない時期。ゆっくりと前に進もうとする桃子の姿に応援したくなる1冊です。(W. U)